

# 初任者N a b i (ナビ)

- 先輩からの贈り物 -

[ 第2版 ]



河内長野市立

学校

名 前

〔第2版〕

初任者N a b i (ナビ)

先輩からの贈り物

目次

河内長野市教育委員会

	頁
市立小中学校教職員様 (河内長野市教育委員会 教育長 福田 弘行).....	2
「めざせ元気集団」 (河内長野市教育委員会).....	3
第 章 教 師 編.....	4
第 章 授 業 編	
(1) 全 般.....	6
(2) 道 徳.....	1 1
(3) 特別活動.....	1 2
(4) 国 語.....	1 3
(5) 算 数.....	1 6
(6) 理 科.....	1 7
(7) 養護教育.....	1 8
第 章 学級づくり編.....	1 9
第 章 子ども理解編.....	2 3
第 章 保護者理解編.....	2 8
第 章 生徒指導編.....	2 9
編 集 後 記.....	3 3

市立小中学校教職員様

「松無古今色（松に古今の色なし）」という墨跡があります。常緑樹である松は、春夏秋冬を通じて、翠色あざやかであり、歳月を重ねても、常に青々として、その色を変えることはないと言えます。

教育という営みも、また同様で、今、情報機器が導入され、教育課程も大きく変革されたとは言え、知徳体のバランスのとれた人格を形成するという目的は不易であり、また、生徒指導をはじめ、学級経営、指導方法等、教職に関わる諸々の専門的知識や技能、教職員こそが有する感性といったものの大半は、古今の色なく、洗練されながらも、脈々と学校教育の中で受け継がれております。

しかし、ここ数年、この流れに大きな変化が現れ、近い将来、危機的な状況になることが危惧されます。

本市の教職員の年齢構成は、40歳代が約45%、50歳代では約40%という現状にあります。この状況は、一方では、現在の各学校が、教職20年・30年という極めて専門性の高い教職員で占められているという好ましい側面がある反面、今後10数年間を考えれば、非常に多くの同僚が、高度な専門的知識や技能、鋭い感性を持ったまま、まとまって教壇を去っていくという現実直面するわけです。こうした中で、新たに多くの教職員が採用され、各校の教壇に立つとは言え、この専門性を継承させる何らかの手を今から計画的に打っておかなければ、将来の本市の学校教育に大きく響くことは明らかです。

現在、各校に配置した新規教職員には、その学校挙げて、様々な指導、支援をいただいているわけですが、研修の場も限られ、さらに、未配置校の教職員の方々の知恵を伝える機会も少ないのが現状であることから、ここに、市内全教職員に呼びかけを行い、596名すべての知恵を一つにまとめ、今後の新規教職員に伝えていくことができればとの思いでございます。

「現場に神宿る」という言葉がありますが、皆様にとっては、「チョークは太い方で書けば折れにくい」などということは当たり前のことでも、新規教職員にとっては、貴重な財産となるものです。

教育課題が山積する昨今、連日、課題解消に向け邁進いただいている中、また、中学校におきましては、進路指導の詰めの時期での無理なお願いとは存じますが、長い教職生活の中で、多くの壁にぶつかりながら身につけてこられた、皆様お一人お一人の持つ貴重な専門性、知恵を、未来の教育に引き継ぐことは、本市教育の将来にかかわる喫緊の課題であることを御理解いただき、一人1点でも結構です、教職にかかわる様々な視点からの知恵をお教えいただきたいと存じます。

平成16年1月

河内長野市教育委員会  
教育長 福田 弘行

新規採用教  
職員のみな  
さまへ

「めざせ元気集団」  
～「自ら、ともに、さらに」～

河内長野市教育委員会

「わかる授業」  
づくりができて  
いるか  
学ぶ意欲につな  
がります

美しい環境  
づくりができて  
いるか  
子どもの命を預  
かっています

子どもの心  
がキャッチでき  
ているか  
どの子ども頼りに  
しています

チームの一員  
として動けてい  
るか  
学校のパワーア  
ップにつながり  
ます

子ども であい  
保護者 ふれあい  
地域住民 みとめあい  
たすけあい

保護者と手  
を結んでいるか  
つながりはぬく  
もりになります

自ら学び続  
けているか  
「教える人」こ  
そ「学ぶ人」で  
す

## 第 章 教 師 編

質問:子どもたちに信頼される先生になるには、どうすればよいのでしょうか。

その答えは、「子どもたちに、この先生は、僕たち私たちのことを愛してくれている、心から心配してくれていると感じさせることができたとき。」といえるでしょう。では、そう感じさせるためには、どんなことに注意すればよいのでしょうか。



子どもたちとの約束を守る。

信頼をなくす例をあげれば、「来週必ず学級でお楽しみ会をしようね。」と言ったのに、しなかったときなどです。どうしてもできなくなったのなら、きちんと説明するべきです。いわゆる説明責任を果たさなければなりません。子どもだからごまかそうという心があれば、絶対子どもたちは見抜きます。

減点主義よりも加点主義で接する。

「ここが、だめ」「これができない。」「こういう子であつたらいいのになあ。」「こういう点が不足しているなあ。と、足りないところにばかり目がいく引き算主義(減点主義)では、子どもたちは「やる気」を持たないでしょう。「ここまでできた。」「こんなことができるようになった。」といった足し算主義(加点主義)で子どもたちを見ていきましょう。

子どもの人権を大切にする。

子どもたちにとって、先生が自分にどれだけ興味・関心をもってくれているかは、とても重要なことなのです。ある子には名前を呼んだのに、ある子には、「はい、あなた」と言ったら、あなたと言われた子は、どんな気持ちになるでしょう。また、特定の子ばかりに話をしたり関わりを持ったりしては、まわりの子はどうでしょう。

また、みんなの前で特定の子をきつくしかるということも、その子どもの人権を傷つけることになるでしょう。「ほめるときはみんなの前で、しかるときはその子にだけ」を原則にしましょう。

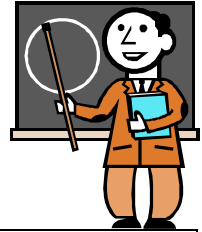
上の3つ以外にも、たくさんあります。先輩たちの成功談や失敗談をできるだけ多く聞いて、早く自分流の子どもたちへの接し方を身につけてください。

質問:「名物先生」とよばれるようになるには、どうすればよいのでしょうか。

1. 自分にとって、これだけはというものをしっかり持つことが大切です。そしてそれを続けること! どんなことでも5年も続けられると一人前です。



2. そして、とにかく動くこと。人の倍動いて、人と同じことができるんだと思う気持ちが大切です。
3. また、一つのことをやるには、その仕込みに充分時間をかけることが必要です。



質問:「よい先生」になる条件は何でしょうか。



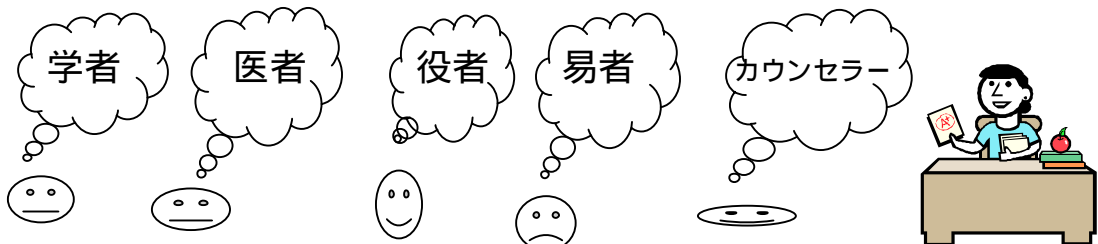
1. 謙虚であること 生徒や保護者に「トップダウン」式に話をするようでは困ります。
2. 人脈づくりに励むこと 特に学校外でのネットワークが大切!
3. 元気であること 先生が「いきいき」している学校は、魅力的な学校であると思います。

初めはみんな初心者です。でもどんなに未熟であっても、子どもの前では「先生」です。「教えるプロ」を目指してお互いに頑張りましょう。

とにかく同じ職場の先輩教師にどんどん尋ねましょう。また失敗を恐れず、行事にも臨んでいきましょう。

教育は理屈ではなく実践力です。

質問:先生の役割として、「ただ単に学者だけであってはならない。」とよくいわれます。他にどんな役割の「者」があるのでしょうか。



「学者」的立場.....当然、先生なのでからいろいろな専門的知識を身に付けていなければなりません。

「医者」的立場.....毎日、子どもたちの健康観察を的確にしなければなりません。

「役者」的立場.....一本調子の語り口調で授業をしていては、子どもたちは聞いてくれません。

「易者」的立場.....予言者のように未来を見通してあげ、ときには暗示にかけてよい方向へ導くことも大切です。

「カウンセラー」的立場.....子どもたちは、いっぱい悩みをかかえています。一方的に指示するのではなく、子どもたちを受け止めてあげましょう。

このように、いろいろな役割を一人の教師がしなければなりません。他にどんな教師の役割（立場）があるのか、考えてみましょう。

質問:教師として、どのような心構えを持たなければなりませんか。



マニュアルに頼らない。  
目標となる先輩教師から目を離すな。  
教育論議を挑め。  
校長先生、教頭先生、生指、各主任の先生によく相談し、報告する。  
子どもとはいつも向かい合えるように、体調を万全にする。  
「教師の力量は、最初の3年間の頑張りで決まる」と、昔先輩から言われたのを思い出しました。そのとおりで最初の3年は一番しんどいですが、努力してください。  
教師の服装は、TPOにあわせることです。体操服をずっと着てはいけません。



## 第 章 授 業 編

### ( 1 ) 全 般

質問:どのようにすれば、授業の腕が上達するのでしょうか。



授業には定石があります。  
それを、本などで勉強するとともに、授業のうまい先生に見せていただき、体感することが必要です。  
「このような授業をすれば、子どもに力がつく。」という実感・イメージがなければ、教科書のなぞりだけの、つまらない授業になります。  
子どもたちは、楽しくて力のつく授業を望んでいるのですから。



質問:つい、活発な子どもの意見に授業が流されていくのですが、それでいいのでしょうか。



学級経営でも、授業でも、往々にして声の大きい子ども・力の強い子ども・積極的に自己表現する子どものペースになることがあります。しかし、冷静に学級を見つめてみると、声の小さい子ども・力の弱い子ども・自己表現の苦手な子どもの多いことに気付くはずです。

そんな弱い立場の子どもたちを大事にし、その子たちの立場に立った学級経営、授業をしている先生が本当に強い先生だと、先輩教師に教えました。



そんな先生の学級は、ハデではないけれど、まったりした子どもたちが育っていたように思います。

また、ある先生は次のようにおっしゃっています。

子どもが子どもの中で意見を磨きあえるよう、子どもの中で意見を回せるように、教師は助言と合いの手を出すように心がけましょう。

質問: ついチャイムが鳴っても授業を続けてしまうのですが...



「チャイムが鳴れば始まり、チャイムが鳴れば終わり」

授業の始まりの3分間で、子どもたちをひきつけ、授業に向かわせることです。授業の導入は大切です。生活に沿った身近なもので迫っていくようにしましょう。(始まっているのに、ゆっくりと職員室でお茶を飲んでいたり、おしゃべりしてはいけません。)

また、子どもたちの休憩時間を奪ってはいけません。チャイムで終わることで

授業を延長しても、子どもたちは上の空です。



質問: いつもガミガミと叱ってばかりなのですが、何かいい方法があれば教えてください。



子どもって、私たちが思っているよりずっと物事をよくわかっています。言っ

て聞かせなくても、話し合いの中で必ずいい方に持っていってくれます。教師は黙って聞き役に回ることも、ときには大事なのです。

困ったときは、子どもに聞く姿勢です。

また、ある先生は次のようにおっしゃっています。

- ・クラスの中で困ったことがあれば、まず子どもたちと相談することです。それでだめなら、学年の先生方や保護者の方と手を携えていきましょう。
- ・いやなことがあったら、他の先生方に聞いてもらうことです。決して一人がかかえこまないようにしましょう。

質問: 子どもがうるさくて、教師の話をもとにも聞いてくれません。そんなとき、どうすればいいのでしょうか。



「あのな、ここだけの話やけどな」とか、「これ秘密の話やけどな」と言う時、聞く側はなんとしてでも聞き逃すまいと集中して聞くものです。それは子どもも同じこと。

授業中に、大きな声で聞かせようとしても、絶対子どもは聞きません。先生が普通に喋っても、絶対に教室の後ろまで届きます。

肝心なのは先生の声の抑揚です。

また、ある先生は次のようにおっしゃっています。



教師の話を子どもの心に響かせるには、腰骨をしっかりと立てて、相手の目を見てゆっくり諭すような速さで話すことです。

- ・ 間を考え、大切なことがわかる話し方で。
- ・ 子どもの目を見てゆっくりと。

質問:板書に関する心得とは、どのようなことでしょうか。



黒板を毎時間きれいに拭きましょう。上から下へ拭き取っていきます。下の溝もこまめに水ぶきしましょう。黒板が美しいと、板書も自然とていねいになるものです。

また、黒板拭きクリーナーを毎週(隔週)きれいに水洗いすることも大切です。

黒板が方眼になっていない場合は、青か緑のマジックで、方眼を書き入れると大変便利です。小学校低学年では、子どもと一緒に視写(写し書き)をすることが多いので、子どものノートの升目の数と同じように引くとよいでしょう。算数の授業でも、大変便利です。

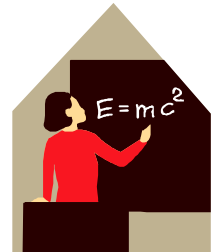
ゆっくり強く書きましょう(チョークが折れるくらいのつもりで、黒板に字を掘るようなつもりで)。小学校低学年になるほど、ゆっくりと。先生が雑な板書を続けていれば、子どもたちのノートまで雑になってくるのです。

国語の授業では、1時間の中のどこかに、視写を取り入れましょう。約10分くらいかけて、子どもと一緒に丁寧に書いていきます。文字数の目安は、学年×10文字で、書くのが慣れてきたら、学年×20文字くらいでも良いでしょう。

板書を、あまりたくさんしないことです。子どもの発言を全て書こうとすると、雑な板書になりやすいです。また、子どもの発言を背中で聞きながら、板書することはよくありません。まず、発言者の顔を見て、ゆっくりうなずいて聞いてあげた後、要点を絞って簡潔に板書するようにしましょう。

毎日の板書に、どの教科も必ず「単元名」を書くことです。「今、何の勉強をしているのか...」子どもたちに絶えず意識させることは大切なことです。

書いた板書は消してはいけません。1時間が終わったとき、授業の流れがわかるものでなければなりません。1時間は、1枚の板書が原則です。



質問:板書のときに気をつけていることは、他にどのようなことがありますか。



教科のその時間にする板書は、全て暗記して行っています。昔予備校で働いていた時に、「教える内容を、ノートを見ながら書くのではなく、教える内容は、すべて理解しているから何も見なくても書けるぞ」という姿勢で教えていました。教諭になった現在でも、この方法は継続しています。

また、色・場所・ポイントマークでわかりやすく色分けをしています。そして筆順も含めて、文字の間違えがないように気をつけています。

質問: 黒板に字を書いていたとき「先生、筆順が違うで」と言われてしまいました。そんなとき、どうすればいいのでしょうか。



黒板に漢字を書くとき、筆順の間違いを子どもに指摘された私は、「ずっとこれで書いてきたから、これでええねん！でも、君らはちゃんと書きや。」と開き直りました。

しかし今から思えば、どうして子どもたちと一緒にその筆順を確かめ、正しい字を黒板に書き直さなかったのでしょうか？

そうすれば、正しい筆順を自分も学べたし、子どもに開き直らずにすんだものを...

あのとき指摘してくれた子どもに、今ではすまない気持ちでいっぱいです。



質問: 授業中に、あまり使ってはいけない言葉はあるのでしょうか。



授業中に、「わかりましたか？」という言葉はできるだけ使わないようにしましょう。こう聞くと、わからなくても子どもは「はい」と応えてしまいます。「わからない所はありますか？」「わかりにくいところはありませんか？」と聞いてやるとよいのです。

質問: 子どもが書いた文章がわかりにくいときは、どのように指導をすればよいのでしょうか。



詩、作文、感想、何でもそうだと思いますが、文を書いた時、具体的でなかったり、わかりにくかったりしたら、必ず「なぜ、そう思ったの？」「どんなふうにな？」と聞き返すようにしましょう。適当に書いているわけではないけれど、自分の言葉に責任を持つ意味でもつきつめることは大事です。

自分の気持ちに一番近い言葉を使うことです。

質問: 教科担任の立場で、子どもとどのように関わればいいのでしょうか。



私は、教科担任という立場で授業を受け持っています。

もし、授業がうまくいかないとき、子どもたちがうまくいかないとき、つい、「子どもたちの所為にしたたり、担任批判になりがち」ですが、授業について子どもたちへの接し方等々、まず、自分を振り返るようにしています。

そして、担任をされている先生方と少しでも話をし、情報を交換したいと考えています。

なぜそうなるのか、何かしんどいことを抱えているのではないかなど、教科担

任では見えてこない素顔が聞けたり、新しい発見があったりします。

一人一人の子どもたちと接する時間が少ない分、難しい面も多いのですが、二時間の授業を大切にしたいと思っています。

質問:授業での発問はとても大切なのですが...



初めての授業参観でのこと。緊張している私に、ベテランの先生が一言。「最初の発問だけ間違えるなよ。」と。

その後の経験で、発問の大事さを痛感させられ続けてきました。

また、ある先生は次のようにおっしゃっています。

目標・目的・原点・筋道の反省・分析・次回のために前後の発問・考え直し・組み立て直しをしていきましょう。

そして、授業の組み立てを考えましょう。子どもに勉強したい、わかりたいという気持ちを持たせて追求することです。



質問:テスト問題を作成するとき、気をつけなければならないことはありますか。



1. 経費節約のことや、森林を保護する立場から、また印刷技術の向上から、出来るだけ、表・裏に印刷をしましょう。こうすれば、問題枚数が多くなっても、半分で済みます。

2. 問題用紙に、直接答えを記入する場合は、太い【 】を使用しましょう。答えを書く場所を分かるようにすることです。

問題用紙に直接答えを記入する場合のメリットは、

- ・用紙を少なくできるので、配るときに時間が節約、資源を有効に活用できる。
- ・カンニングを出来にくくする(テスト監督はそのことに専念するのが当然)。

3. 配点で1点、2点などである場合は【 】に【 】 【 】  
各2点 各1点

とすると、採点の時に、合計するのに、大変やりやすいです。

解答用紙を別紙に印刷する場合は、

(1) <input style="width: 80%;" type="text"/>	(2) <input style="width: 80%;" type="text"/>
--	--

各1点

各2点

--	--	--

セットで

などのように区分すると、採点後の合計を出すのに、時間が短縮されます。

採点に時間をかけるより、あいた時間で、教材研究・開発、児童・生徒とのふれあいの時間を多くすることの方が大切です。

たかが紙の使用量、されど紙の使用量。時は金なり 以上に時は金以上。

まさに、環境教育を日々実践しましょう。

## (2) 道徳

質問: 保護者に「先生、時間割に道徳って書いてあるけど、何をやる時間なのですか？」とたずねられました。  
 あなたなら、どう答えますか。



答え方はいろいろあるでしょう。そのうちのひとつに「道徳の時間は、自分を見つめる時間です。」という考え方があります。

ここで、道徳の時間の流し方の概略を示しておきます。

まず、本時の目標をしっかりとちます。そして展開を考えます。展開は次のように考えるとよいでしょう。

学習活動	留意点
《導入》 「目標にむかうもの」「使う資料の説明的なもの」など。	・「この時間は、お説教をくらうなあ」と思わせるような、直接、価値に向かう導入は避けたいものです。

<p>《展開》</p> <p>中心的な資料を用意しておき、それについて考えていきます。例えば登場人物がでてくるような資料ならば、登場人物に共感させて気持ちを考えさせるのもよいでしょう。</p>	<p>この展開の中で、他の児童・生徒の発言を聞くことにより、はじめ持っていた道徳的な価値観を次第に高め・広げていけるように配慮します。このとき、「自己を見つめる」ことになるわけです。</p>
<p>《終末》</p> <p>本時の目標にせまるようにまとめをする。</p>	<p>価値の押し付けになったり、お説教になったりしないように気をつけます。</p>

このように「道徳の時間」を扱うわけですが、日常の教育活動において行う道徳教育と関連させたいものです。すなわち、全教育活動をとおして行う道徳教育を補充・深化・統合させ、道徳的実践力を培うのが道徳の時間なのです。

### ( 3 ) 特別活動

質問：児童会行事を、児童主体に運営させるための手立てがあれば教えてください。



行事の計画は、教師が作っているけれども、児童会メンバーが企画から作り上げているように、本人たちに思わせるように持っていきましょう。

プログラム作りからシュミレーションを立てるまで、進み方をはっきりとさせましょう。プログラム作りは、児童会の中心メンバーで決定することが大切です。

全校児童を動かすという気持ちを持たせて、進行（指示・説明等）の際の言葉を文にして書かせましょう。

リハ－サルを行います。そして不十分なところは、しっかりと整理しましょう。目的やねらいが十分に到達している場合は、しっかりと誉めることも忘れずに。

当日は、できるだけ口を出さずに我慢しましょう。

後日、振り返りの際、自分でよかったと思っているところは、誉めて自信につなげましょう。反対に良くなかったところも、次につながるように振り返りをしておくことが大切です。

行事自体は前年度までのものを踏まえるが、新しいものもどこかに取り入れていく方向を大切にしましょう。その内容については、できるだけ児童の声が反映できるように心がけましょう。

#### ( 4 ) 国語

質問: どうすれば、子どもが本をたくさん読むようになるのでしょうか。



まず、先生が読み聞かせをしましょう。心の残った本を紹介しましょう。

本を読んだ体験を話してあげましょう。

学級目標を設定して、読書何冊や本の木など目に見える効果をねらいましょう。



質問: 子どもの読書活動を活発にするのは、どうすればいいのでしょうか。



子どもの本を、100冊ぐらい読んでみましょう。そうすれば、児童文学のことが少しは頭に入りますし、「お薦めの本」を提供できます。

そして、パソコン(インターネット)よりも、まず図書室で本にあたって調べてみましょう。

質問: 国語の授業で、どのような発問をすればいいのかよくわからず、なかなかいい授業ができません。どうすればいいのでしょうか。



「授業」は、教師にとって職業の中心となるものです。子どもが授業にのってこないなら、それは教師自身に原因があるととらえることが大切です。決して、その原因を子どもの中にのみ探してはいけません。発問は、授業の骨格をなすものです。組み立てがしっかりとしていたなら、子どもは集中し、授業は熱気に包まれます。



子どもが熱中する発問とは、知的な生産を促すものです。見てすぐに答えられるようなものばかりや、困難すぎるものでは熱中状態は生み出せません。

例えば国語では、本文の記述をもとに、推測・判断できる発問であることです。「ここにこう書いてある。だから、こうである。」といった意見を引き出せる発問を考えることが大切です。

記述からでは分からないような、気持ちばかりを考えさせる授業では、国語だか道徳だか分からなくなり、根拠もないため、意見もかみ合いません。

優れた発問を望むなら、教材研究で本文をしっかり読み、調べ、そこから考え出せる発問をできるだけたくさんしぼり出すこと。

その中から柱となるものを選び出すのです。

また、「発問」と「指示」「説明」とを混同させないことも大切です。

「発問」は、知的な生産を促すものであることが大切ですが、「指示」には明確

さが必要です。

そのためには、「一時にひとつの指示をする。」「作業が終わった後のことも分かる。」といったことが大切です。

毅然と落ち着いて、はっきりゆっくり端的に指示しましょう。

「説明」にも、明確さが求められます。

下手な説明や長い説明は、子どもをむしろ混乱に導きますので注意しましょう。

**国語では、記述にそって意見を言えるような発問を考えるべし。**

質問:国語の授業をどう展開しているのかわかりません。何かいい方法があれば教えてください。



そうです。私も国語が一番苦手です。どうしても同じパターンで授業することが多く、子どもが国語の時間、退屈がったり、おもしろくないと行ってきたりします。そこで、少し目先を変えた授業構成をしてみるが必要になってきます。



基本的には、国語の授業は「言葉」を大切にすべきですが、でもたまには……。

例えば、「伝記」を教材としてあつかう時、どのクラスにも絵を描く事の得意な子が何人かいるものです。その子達を何人か集め、その単元をその子どもたちの人数分に分けて、担当部分を漫画で表現させます。当然コマ割をしてストーリー性を持たせた漫画になるよう、また主人公の顔など統一するように指導はします。

完成した漫画を、児童数印刷し、バラバラにして子どもたちに配布します。教科書をもとに、プリントされた漫画を教科書の流れに沿うよう配列しなおさせます。嫌でも、教科書を読み、流れが分からないと漫画を組み立てる事はできません。

どこか一部分、子どもに描かせない部分を作っておけば、その部分を探させ、自分で漫画を描き、ストーリーを続けさせる事もできます。

あるいは、短い説明文であれば、子どもたちの教科書を一時預かり、教科書を印刷し子どもに与えます。

その時、ポイントになる言葉や接続詞など、(その単元で指導したい内容を考え)修正液で消し、字数の文だけを書き入れておきます。マルの数と前後の内容から、どのような言葉がそこに隠されているか、いろいろな考えをもとに話し合いながら学習を進めていくことも可能です。

質問:国語の教材研究では、どのようなことをすればいいのでしょうか。



「君は、このわずか一行の文章で1時間の授業ができますか？ この文章の重みわかりますか？」(国語の授業を指導していただいたとき、教わった言葉です。教材研究の本当の意味がわかったような気がしました。)

質問:子どもは、なかなか自分の思いを表現してくれません。このようなとき、どうすればいいのでしょうか。

⇒ 文字として、言葉として、そう簡単には自分の思いを表現できるものではありません。

文作りに慣れさせることが大切です。

漢字の練習と同じで、毎日毎日繰り返す事が必要です。

そのために、日記を続ける事が一番の早道です。

先生方の中で日記指導をされている人を見かけますが、1週間に1回とか、2回程度ですが、毎日書かせことが大切だと思います。あまり多くの量を書かせる事を目的とせず、B4の紙の1/4程度に、日記の罫線を印刷します。毎日書かせるので、その日の自己点検も印刷しておきます(例、給食はしっかり食べましたか。しっかり勉強しましたか。発表できましたか。等々)。1日5~6行程度です。給食終了時や下校前に書くことも可能です。

学校での子どもの生活や友人関係、悩みの相談箱としても利用することができ、児童理解を深めることにもつながります。

質問:国語で音読をさせるには、どのような方法がありますか。

⇒ 一文読み・やまびこ読み・一斉読み・くちびる読み・早口読み・四方読み・心の目読み・列読み・男女読み などたくさんの方がいます。

(「、」「。」の指導では、「、」「。」の時は1拍、「。」は2拍タンバリンを打ってやるといいでしょう。)



質問:説明文の授業には、どのような方法がありますか。

⇒ 題名読み:全文を読む前に、題名を見て思いつくことを発表させます。こうすることで、これから学習することへの興味付けができます。

全文を巻物のようにつなげ、一目で内容が見えるようにします。

接続詞の入れ替え。

文を関西弁に変えて読みます。おもしろくてよくわかります。

全文の中に、どの言葉が一番多く出てくるかを探します。

形式段落には番号をつけます。

質問:子どもは、なかなか漢字を覚えてくれません。どうすればいいのでしょうか。



練習すること以外に、覚える方法はありません。毎日毎日の漢字練習とともに、学級での漢字小テストを繰り返すことだと思います。一文で練習することが、漢字の使い方や意味を覚える上で大切だと思いますが、子どもにとってできたという満足感が、次のやる気を起こすものです。その意味では、ひとつの単語として理解できているかテストしてみるのも必要です。しかし、進出漢字を覚えているうちに既習の漢字を忘れてしまいますので、私は次のような方法で、毎日小テストをしました。参考にしてください。



前日に、翌日の漢字テストに出る漢字を9個教えます(1ページで)。そして、ノートにその9個の漢字を練習してきます。

翌日提出されたノートを授業前に点検し、間違っている漢字を指摘しておきます。

そして10問テストをします。10問の内9問まではどの漢字が出題されるか分かっていますので、9割は取れるはずですが(実際は、そうはいきませんが)。

そして、最後の1問は「リクエスト問題」です(指定したページの中の漢字に限定)。

これを毎日繰り返し、一つの単元が終了した時、毎日指定した漢字の中から50問のテストをします。

間違った字は、何回も練習させます。ほとんど9割以上は得点できるようになります。

質問:教師の言語に関する心得とは、どのようなことですか。

いつも辞典(電子辞典)を携帯しておき、必要なことがらはずぐに調べようとする事です。(読み方・意味・熟語など)  
電子辞書には、英語や百科事典など入っているものがよいと思います。

## (5) 算数

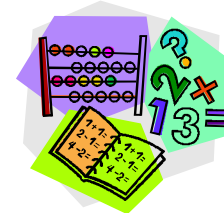
質問:子どもたちの計算力を向上させているのですが、どのようにすればいいのでしょうか。

「継続は力なり」だと思います。

毎日、たし算・ひき算・かけ算・わり算を各15問ずつ計60問を宿題にし、答え合わせ、訂正もさせました。これを1年間通して行うのです。

同じ問題で年間5回テストを行うと、速く解けるようになり間違いも減少することが確認できました。

(3年生の6月に、計算に8分かかっていた子どもが2月には3分40秒、3年生の6月に、計算に7分20秒かかっていた子どもが2月には2分30秒)



子どもたちは、毎日の宿題ということで、最初は嫌がったりしましたが、速く解けるようになると、嫌がらなくなりました。

また、学習（計算）する際、「なぜするのか。」「どうなっていくのか。」をはっきりと伝え、テストで実際に速くなったこと、間違いが減少したことをはっきりと分かるようにすることが大切です。

## （ 6 ） 理 科

質問:面白理科授業をお教えしましょう。



授業のねらいと、子どものニーズとの兼ね合いをどのように捉えるかによって、授業に対する子どもたちの意欲・興味・関心が違ってくることが指導者として意識してほしいものです。

5年の理科の授業での例。衝突の実験での工夫。

「導入段階で使うか、発展学習で使うか？」は、子どもたちの集団の状況なり実態把握をしてからのことになります。

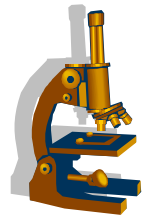
強靱強力な非弾性の球を用意し、実験台の上に落とし、その状況を子どもに見せます。

子どもたちは、すごく興味をもって、何がどのようになっているのかを追求します。すぐに答えたり、また、その逆に、そのことには触れずに授業を展開したり、子どもの心を、楽しく優しく揺さぶることが大切です。

手作りのものを、教室の教師の机の上に置いておきましょう。何も言わなくても、子どもたちは気づいてくれます。質問する子、作りたいという子等、さまざまです。なぜこのようなことをするのかというと、さりげなく子ども自身に小さな刺激を与えることが大切だと思うからです。

ある程度の期間刺激を与えれば、自ら刺激を求めて活動し始めます。これが、自学習では内科と考えています。

子どもの中にあるいろいろな能力を引き出す喜びを感じる教師って、楽しい毎日だと思いますよ。



質問:私は、理科が苦手です。教え込みの授業ばかりです。理科の授業は、どのようにすればいいのでしょうか。



理科は、問題解決です。その一言で終わりです。

さあ、問題です。「サクラの花は、なぜ、4月頃に咲くのですか。」

「大阪で、サクラの花を5月に見るためにはどうすればいいのですか。」

どうでしょうか。あなたの答えは・・・。

自分なりの答えが見つけれたら、本当かどうか「確かめてみてください」これが理科の学習です。



理科のネタをたくさん持っている人がいますが、余り当てにしない事です。方法論だけ教えてもらっても、自分が高まっていけない限り問題解決にはなりません。しっかり教材研究してください。

しかし、教材研究しすぎて、したことをみんな子どもに伝えたいと思っはけません。5割できれば十分です。授業時数を見てください。結構標準時数以下で指導している例が多いですが、それは、全て教え込んでいるからです。教え込みも必要ですが、子どもの活動・思考時間を保障することの方が、一番大切です。

How-To 的に、

3年生「電気の通り道」 電気君を登場させてください。

4年生「空気の性質」 空気君を登場させましょう。

学習時、電気君や空気君が、どんな事を思っているのかな？ 電気君が何処を通って灯りになるのかな？

ちょっと工夫で授業が広がってきます。

## ( 7 ) 養護教育

質問:言葉の発達の遅れた子どもに、どう接すればよいのでしょうか。



学級集団の中にとけ込むように、環境をつくって下さい。遊べる友だちをつくることは言葉の芽を育てることにつながります。

話す必要感や意欲を高めるために子どもの話に耳を傾けて下さい。

先生と話すことを喜ぶようにさせて下さい。いつでもどこでも根気よく話しかけて下さい。読み聞かせも言葉を豊かにします。

わかりやすく話しかけて下さい。身振りを交えて話すと理解しやすい子もいます。

わかりやすい絵や文字などの視覚的な情報も言葉の理解を助けます。



質問:言葉の教室では、なぜ遊びを取り入れているのでしょうか。



遊びは子どもにとって楽しいものです。遊びをとおした、楽しめる関係の中で自分から話したい、やりたい気持ちが育ってきます。具体的なやりとりを通して言葉が育っていきます。

## 第 章 学級づくり編

質問:仲間づくりや学級集団づくりはどう進めていけばよいのでしょうか。



### 1. 朝の会や昼食、終礼を充実させる。

連絡や形にとらわれ、必要以上に長くなってはいけません。この時間に生徒をよく観察しましょう。

### 2. 道徳と学活の時間を両輪として充実させ、仲間づくりに生かす。

今は学年で同じ内容で統一して実施されることが多いようですが、そんな中で一人ひとりが生かされるように工夫して、子どもどうしをつないでいきましょう。

### 3. 班を生かす。

身近な周りの人のことを思いやる。ちょっとした気遣いが大事なことです。他人の立場に立って考えられる機会を作っていきましょう。

### 4. 行事で共同して一つのことを仕上げる喜びを味わわせる。

しんどいことから逃げないで、達成感・満足感を体得させ、何事にもチャレンジしていく意志を持てるようにしていきましょう。

### 5. 生徒会を中心に、全校集団作りの見取り図を描き、学校全体として『良い思い出づくり』に精を出す。

『本物』と出会わせることです。



質問:子どもを平等に扱うとは、どういう意味ですか。



「教師は全ての子どもに平等に接する」は間違いです！！

よく「えこひいきはいけない」という言葉を耳にします。教室で子どもたちに接するとき、どの教師もみんな子どもたちに勉強がわかって欲しい、人に優しい人間になって欲しいと望みます。

その目標を達成するために、全ての子どもたちに同じように接していて良いのでしょうか？

帰宅後、塾で学習できる環境の子もいれば、親の帰りが遅く、弟妹の世話をし、自分で食事を作る子。病気の家族の面倒を見る子。家で食事もなくに摂ることができない子。親から虐待を受けている子など、子どもを巡る生活環境はみんな異なります。

先輩の教師から『医者とは病気を治してこそ医者、教師はしんどい子を良くしてこそ教師』と教えられました。子どもは教室に座っている段階で、生活面や立場など様々な差がついています。

全ての子どもに同じように接することは、その差を助長するしかないのです。子どもたちはスタートラインがみんな異なっているのです。だからみんなを平等に扱うことは不平等を招き、しんどい状況の子に手厚く接することこそが平等に



なっていくのです。

確かに、経済的にも安定し、学力も高く、スポーツもできるような子に接していると楽しいし『楽』でしょう。しかしそのような子は、誰が教えても一緒です。

手がかかり、みんなに疎んじられるような子に関わり、その子が自分を信頼し良くなっていったらそれこそ教師冥利に尽きると思います。また教師がそのような考えを持ち、子どもに接していくならば、いじめや差別を許さない優しい集団が必ず出来ると確信しています。

また、ある先生は次のようにおっしゃっています。

子どもは自分の都合で、「平等」と「自由」を口にしますが、「平等」は全てを均一にするのではなく、それぞれの子どもが持っている個性を尊重してあげることだと思います。だから、みんな同じことだけが平等の本質ではないのです。

また、「自由」は自分をコントロールすることが本当の自由なのです。

質問:「こんな学級になってほしい」という願いがあります。そこで、学級経営案作りに定石はありますか。



1. まず、子どもありき！
2. 教師の「こんなクラスに！」という思いは大切。
3. 遊び時間に本当の子どもの姿が見える。
4. 子どものトラブルは、即 解決。
5. しんどい子どもを中心にクラスが動く。

どんなに教師の思いがあっても、クラスの子どもの実態をよく理解して、クラスづくりをしていくことが大切です。授業だけでは子どもの本当の姿は見えません。

遊びの中で子どもと楽しみ、本当の自分の姿を子どもに見せ、子どもの本当の姿をつかんでクラスづくりをしていきましょう！

何かトラブルがあったら、どんなに忙しくても「後で」はなしに。

子どもの声は大切にしましょうね。

質問:子どもと出会う学級びらきのとき、気をつけなければいけないことはありますか。



あいさつは、「友だちをつくる魔法の言葉」です。

まず、気持ちのよい教室作りから始めましょう。机・いすの高さ変え、教室やろうかななどの環境整備を…。

そして、子どもの名前を間違えないように何度も練習をすることです。

また、年度始めに目標を設定しておきましょう。

子どもと出会う1学期に、1年間の努力目標を設定しておくのです。そうすると、気分で甘くなったり、ガミガミ言ったりすることがなくなり、子どもへの対



応が一定します。

4月、子どもたちに会う前にどんな準備をしておけばいいのか、ベテラン先生方にどんどん聞いてみましょう。

質問:学級通信を書きたいのですが、気をつけることはありませんか。



学級通信を書くときは、

パソコンをたよらず、なるべく手書きしましょう。  
その日の出来事を、タイムリーに出しましょう。  
子どものできたこと、良かった事を中心に書きましょう。

学級通信は絶対書いた方がいいです。

保護者にほめられたことがなかった私が、初めてほめられました。子どもと話すことが保護者の中で減ってきています。学級通信があると、その話題を中心に子どもと話が盛り上がり助かるみたいです。

また、学級通信の名前は、子どもにアンケートをとったり、子どもの実態からとるなど、架け橋となるネーミングを考えてみましょう。

質問:学習環境の乱れを、どのように克服すればいいのでしょうか。



教室に行くと、机がそろっていない、ゴミが多い、落書きが目立つなどの学習環境の悪化は重要視しなければなりません。また、そのような現象を早期に見つけ、解決しようという意識を持つことが大切です。放置しておく大変なことにつながります。(環境の乱れ 生活の乱れ 学習の乱れ)  
そのための手だてとして



はじめの「起立・礼(おはようございます)」の時が勝負!全員でゴミ拾い、机の整頓。服装を正させる。きちんとできたら「気持ちよくなったね。」と一言。

口で言うより、先生自らが率先して行動する方が効果あり。(机間巡視中ほうきで掃く等)このことは清掃指導のみならず、すべての指導に通じます。子どもは先生の姿をよく見ているものです。

ゴミの見える生徒を育てるには、ゴミの見える先生になること。

質問:教室環境をどのように整えるといいでしょうか。何かコツがあれば教えてください。



・教室前面は、なるべくシンプルなのがよいでしょう。なぜならば、気が散るからです。ADHDやグレーゾーンの子は、掲示物などに目が向いてしまい、

勉強に集中できなくなることがあります。(実際に、授業中フラフラと立ってきた子どもがいました。)

- ・学級の本棚は、3箇所ぐらいに分けると、取りに行くとき混雑しません。
- ・ぞうきん掛けに洗濯バサミを用意すると、ぞうきんが落ちて汚くなることがありません。
- ・掃除のとき、机はまず前に寄せて運ぶようにします。戸棚の下段にごみが入らないようにするためです。
- ・教室の汚れ、机の並び方、くつ箱から、クラスの荒れが見えてきます。放課後、チェックし、美しく保つようにしていきましょう。
- ・特に、先生の机前は片づけることです。
- ・教室にゴミが落ちていると(乱れていると)子どもの心も乱れます。活動が終われば、きれいにゴミは拾って片づけることです。

質問:低学年の子どもたちでも、短時間できれいな教室にさせたいのですが、そうじをどのように指導すればよいのでしょうか。

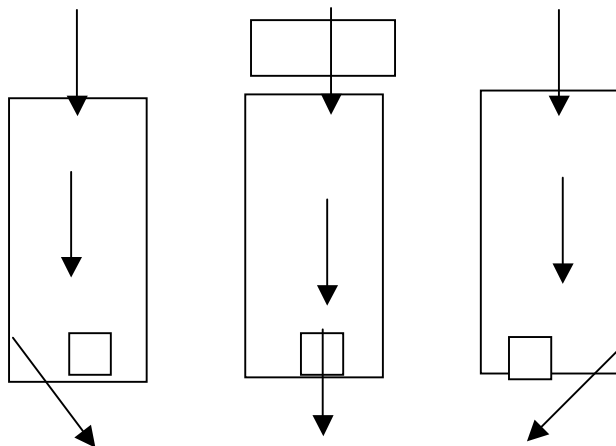


\* 低学年の子どもたちは、体を動かすことが大好きです。しかし、「きれいにしなさい。」というだけではなかなかできないものです。

そこで、私のクラスでは次のような実践をしています。



前



1. はじめに2人1組になって、前から床をほうきで掃きます。(そうじの前に机は後ろに運んでおきます)

2. 前半分きれいになったら、6人で机を前に運びます。

3. 次に後ろ半分をほうきで掃きます。その時、後ろに の囲いを作って、そこに2人1組でゴミを集めさせます。(ゴミ集め競争をさせます。)

4. 後ろでゴミが集められると2人組の中の1人が机や棚ふきをし、後の1人が後始末や、ごみほり、黒板拭きをします。仕事が終わった子どもたちが、机を元にします。

この方法で低学年の、子どもたちでも教室そうじを6人で15分あれば完璧にできます。低学年の子どもたちには、分担をはっきりしてあげることが大切です。

## 第 章 子 ども 理 解 編

質問:子どもをどのように見ればいいのでしょうか。



### 1. 7割主義でゆく

100パーセント(完璧主義)をめざすと、自分自身が精神的にきつくります。

たとえば、40人のクラスで宿題を出したとして、100パーセントの子どもがみんな宿題をやってくことを期待してはいけません。全体の7割、つまり30人ほどがやってきたら、それでよし、とするくらいの心の余裕が必要です。子どもに過度の要求をしてはいけないのです。

自分自身にも、他人にも、人間に完璧を求めてはいけません。100パーセントをめざして目いっぱいがんばると、自分の健康を害してしまいます。これでは、<笑顔で元気な教師>になることはできません。

### 2. 子どもと教師がともに楽しめる授業づくりをめざす

子どもにとって好きな先生とは、<たのしくてよくわかる授業>をする先生です。

<たのしい授業>と「オモシロイ授業」とは、質的に異なります。冗談を言って子どもを喜ばす授業は「オモシロイ授業」かもしれませんが、こういう授業が子どもを賢くするとは限りません。

<たのしい授業>とは、子どもにとって役立つことを教え、こんなこと知らなかったなあ、賢くなったなあと感動させるような授業を意味します。

<たのしい授業>が成立するためには、<教育方法>だけでなく<教育内容>も考える必要があります。

<たのしい授業>とは、子どもにとっても教師にとっても文字通りたのしいものであり、その授業がたのしかったのか、そうではなかったのかという判定は、子どもの<評価(感想)>によって決めるべきものです。

また、<たのしい授業>をしたら、子どもが問題行動を起こさなくなるわけではありません。

<たのしい授業>は、問題行動をなくすための手段ではありません。<たのしい授業>そのものが、子どもがたのしく生きてゆく上での目的とならなければならないのです。

### 3. 問題が起きたらチャンス

子どもが問題行動を起こしたら<子どもと真剣に話ができるチャンス>と思うことです。問題を起こした子どもも困っているのです。

ですから、教師は問題解決のお手伝いをするという心構えが必要です。子どもが問題を起こしたらクラス担任である自分の責任であるという<自己否定>だけは、してはいけません。

質問:子どもをほめることが大事といいますが、どのようにほめればいいのでしょうか。



「たくさんほめる」「シンプルに力強くほめる」ことが大事です。

- ・「じょうずだ」「うまい」「すごい」という評価は、何となくうれしいですが、どこが良くて、どこを直せばいいのかわかりません。
- ・「合格」「よしできた」「5点満点の3点」という評定。  
これなら、目標に達しているのか、あとどこをどれだけ直せばよいのかわかります。だから、がんばろうとするし、できたときの達成感・満足感も得られるのです。
- ・誰ができていて、誰ができていないかをとらえます。そして、指導を入れ、子どもの力を高めていくのです。  
子どもを見ていないのでは、“活動はあるが、指導がない”状態となります。
- ・一人ひとりとらえるには、「一人ずつさせる」「ノートを持ってこさせる」「一斉にさせる」「言わせる」「机間観察」「となりと確認する」「拳手させる」など、方法はたくさんあります。

また、ある先生は次のようにおっしゃっています。

ほめる（認める）と叱るは、チャンスとタイミングを見計ることです。かわいた土に水がしみ込むように…。

毎日毎時間が評価です。ほめることがないか探しながら、子どもを観ていきましょう。

目線は子どもの高さにしてほめることが大切です。

質問:子どもの反発的な言動にとまどっています。どのように接すればいいのでしょうか。



いくら反発した言動をとっていても、中学生はやはりまだ子どもです。

だから教師はいくら裏切られても、最後まで生徒を信じ、理解するように努力し、愛情を持って叱るべきだと思います。

彼らは、我々が「本物の教師」であるかどうかを見ています。（『本物の教師になりなさい』という言葉は、私が新任1年目に先輩の教師に教えていただいた言葉です）

質問:悩みや不安のまったくない子どもなんていません。そこで、子どもの悩みや聴き方や関わり方はどうすればいいのでしょうか。



- (1) 「良い聴き手は良い話し手を育てる」と言います。まずは、普段から聞き手に徹することです。
- (2) 良い聴き手とは、受容的な聴き手です。人と接する時、先ず相手の意見を受容的に聴くことで、相手の意見を引き出します。（カウンセリングマインドで聴く。）
- (3) 教師は必然的に児童より年齢が上です。しかし、若いあなたは、ベテラ



ンの先生より子どもたちの年齢に近く、より子どもたちの世代に近いわけですから、子どもたちの悩みを引き出しやすいことも事実です。子どもたちにとって、あなたは「先生」であると同時に、学校の中で一番子どもたちに年齢の近い「お兄さん」「お姉さん」です。

毎日の生活の中で子どもたちと「よく遊び」「よく学ん」でください。そこから子どもたちとの「親しさ」や「信頼感」が生まれます。このような気持ちが生まれれば、子どもたちも自然に、あなたに「悩み」を打ち明けることがあるでしょう。これは(1)のための基礎です。

- (4) 「良き相談者」は「良い観察者」です。子どもたちの普段の何気ない会話や行動の中の「ちょっとしたこと」( いつもと違うぞ?! )に気づく目を養いましょう。そのためには子どもたちといろいろなことについてよく話すことです。そして、注意深くノートなどを観ることです。

- (5) 「良き相談者」になるためには、「良き観察」を生かすための「経験を持ったアドバイザーとしての一面」が必要です。

「経験を持った」という意味ではベテランの先生には及びませんが、ベテランの先生の経験を聴き取ることで自分の中に蓄積していくことができます。日頃から自分の周りの経験豊かな先生方と会話し、いろいろな話を(1)の気持ちで聴き、自分の中の知識や経験を増やす努力をしましょう。

- (6) 「経験を持ったアドバイザーとしての一面」を自己の中に培っていくためには、系統的な研修の活用も欠かせません。

市の教育委員会や府の教育センターが主催している研修会に出て、児童心理学や発達心理学、実践的研究者の講演などから自分の中のアドバイザーとしての知識を増やしていきましょう。

- (7) 「良き相談者」は相手に安心感を与えます。あなたが学級の子どもたちに「安心」を与える存在であることが大切です。

そのためには、どの子も安心して居ることができる「学級づくり」は欠かせません。どの子もそこに居ることで「友達や先生」から認められ、満足感を味わえる学級づくりに努力しましょう。一人一人に目を向け、一人一人のよさがみんなに認められる学級づくりを日頃から心がけましょう。

- (8) 「アドバイザー」は相談しようとする子どもの自立を助ける気持ちでアドバイスしましょう。ついつい経験が豊富でベテランであると、いかにも「先生的な助言」( 高学年の子どもにとってはそんなこと言われる前からわかっているわい。 )に終始しがちですが、若いあなたは、ぜひ「共に考える」「共に解決する」という視点に立ってアドバイスしましょう。

但し、この時「いけないこと」は、「それはだめだよ。」と言ってやれる強さも持てるようになりましょう。

- (9) 「良き相談者」はどの子にも平等に接しながら、相談に来た子に「あなたのことを大切に思っているよ。」という気持ちを抱かせるものです。

そのためには日頃から自分の人間性を磨き、高め、豊かなもののできるように、いろいろな経験を積んでください。「良き相談者」になるにはあなたの人間性が大切です。

質問:その他にも、子どもの悩みの聴き方や関わり方には、どのようなものがあるのでしょうか。

授業中、休み時間、クラブ、放課後等日常の会話の中で子どもたちのちょっとした言葉や雰囲気を感じ取る努力をしましょう。

そのためには、子どもに積極的に関わることが一番大切です。

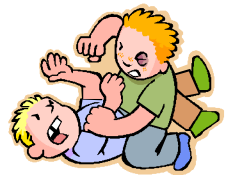
子どもと約束したことは、どんなことがあっても守りましょう。

自分(教師)の考え方は、決してみんなと同じ考え方ではないということです。人の意見をよく聞いて人の立場に立って考えられる教師になりましょう。

質問:いじめの問題は、複数の子どもが関係して生じるものです。いじめが存在する学級へのアプローチは...

(1) 人権の立場から「いじめ」を許さない、と言う担任の姿勢を、学級の子どもたちにはっきり示すことです。

(2) 人にはそれぞれ相違があって当たり前です。その相違を互いに認め合うことが相互理解の基本です。「自分は正しく、相手は間違っている。」自分中心に「あの子は



だから嫌いだ。」と言う意識を変えていくことが大切ですが、これは一回注意して、みんながわかるというようなものではありません。日々の学習の中で、生活の中で、道徳の中で培っていかねばならないものです。

(3) 「相違を互いに認め合うこと」を学級の子どもたちに培っていくためには、どの子にもあるその子、その子の「よさ」を見出してあげることが大切です。

自分とはスタイルの違う子どもであっても、そこに「こんなに素敵などころがある。」「こんなにいいところがある。」ことを学級のみんなに知らせ、教師自身が率先して認めていくことが大切です。それが子どもたちに相互の「よさ」を認め合うことを広げていくでしょう。

(4) (1)で述べた、人権の立場から「いじめ」を許さない、と言う基本姿勢を学年のどの先生も共通理解して、「いじめ」が複数の学級にまたがって起こっている場合にも、同じ姿勢で子どもたちに臨むことは「いじめ」に対する基本です。

(5) 人権の立場から、「いじめにあっている子ども」を守ることは基本です。いじめにあっている子どもの立場を守り、いじめる側の子どもたちを教え、諭し、自分たちのやっていることが相手の人権を以下に傷つけているか、考えさせ、自分や人の人権を大切にす気持ちに導くことが大切です。

(6) いじめが存在する学級に対しては、(1)～(5)までのアプローチを取

りながら、一人一人の子どもたちの声が担任の耳に聞こえてくるような学級経営を心掛けましょう。

即ち、いじめが存在するような学級の場合は、子どもたちの声が学級の中のどこかで留まって、子どもたちの力関係や人間関係で、声を出せないような子どもたちがいることが考えられるので、どの子の声も学級の中でみんなの前に出していけるような「開かれた学級づくり」を心掛けましょう。そのためには、どの子にも平等に接し、どの子も大切にするという、安心感を与える担任の姿勢が基本です。

(7) 学級内で、差別やいじめ、その他排斥することが起きた場合、教師の発言や行動や表情などに原因があることが多いものです。叱るときのことばに注意が必要です。

教師が子どもを責めるような言葉を多く使うと、子ども同士がお互いを責めあう関係ができ、思いやりは育ちません。

「どうして あなたは いつも こうなの！」

「だれが こんなことをしたの！」

という言葉は要注意です。

質問:子どもとのコミュニケーションの取り方にはどのような方法がありますか。



- ・ 日記、握手（声かけ）、遊びなど、一日の生活の中で子どもとの接点を1つでも多く取りコミュニケーションを図るようにしていきましょう。
- ・ 朝の健康観察で、毎日必ず担任が児童の名前を呼び、顔を見るようにしましょう。そうすれば、夜、風呂に入りながら、「アレッ？今日あの子の声聞いたかな」「アレッ？あの子の様子はどうだったかな」と思うことはないはずです。
- ・ 「日番のお話」を設定し、毎日、二人、日番が朝の会で昨日の出来事や思うことなどを話すといいでしょう。



また朝の会や帰りの会のプログラムには、健康観察・予定・ビッグニュース・目標・反省・明日の予定・連絡・振り返りニュースなどを盛り込むといいでしょう。

- ・ 「若いって スバラシイ！！」

子どもたちは、先生の明るい若々しい声を聞くだけで「ドキドキ」、遊んでくれると「ワクワク」、先生の何気ない失敗談や生活の話に親しみを感じ「ホッとし」、自分のいいところを誉めてもらおうと「もっと頑張ろう！！」と張りきります。いっぱい遊んで、仲良くなりましょう。

また、子どもと一緒に遊んだあとの授業は、とても授業がしやすく、子どもたちも集中し、充実感がありました。

- ・ 子どもの流行を知ると人気者になれます（アニメや遊び等）。それを題材に授業すると、子ども達が授業にのりやすいです。
- ・ 子どもは、何でも動くものに反応します。先生のエネルギーが子どもの活

力源です。

- ・ 子どもが自分の思いを言え、子どものサインをキャッチできるよう気配りと配慮が必要です。また、子どもの日々の変化をよく観察し、個を生かす活動を創りだしていきましょう。
- ・ 仕事を離れて、自分を別世界へさっそう夢や趣味をもてたらいいいね。そして、子どもを違う角度で見られると思います。

質問:子どもとのあいさつで、心がけていることがあれば教えてください。



かつては、「おはよう！」と声をかければ、子どもたちからも「おはようございます！」と応えが返ってきました。しかし今、「おはよう」と言えば、無言か「おはよう」（特に小学生）と返ってきます。



私は、いつの頃からか、生徒に対して大きな声で、「おはようございます」と言うようになりました。これは、子どもを持ち上げているのではなく、オウム返しに「おはようございます」と言わせたいがためにおこなっています。

長い間続けたおかげで、声の調子やタイミングに絶大の自信を持っています。ぜひ、子どもからは「おはよう」ではなく、「おはようございます」と返ってくるような声のかけ方を身に付けてほしいものです。

質問:あいさつは大切だと、これまで聞かされてきましたが...



「あいさつは友だちを作る魔法の言葉」といわれるように大切なもの。

明るく大きな声であいさつをしましょう。特に来校者に対して、しっかりできるようにしましょう。

それは、学校のイメ - ジアップにもつながります。

## 第 章 保護者理解編

質問:保護者からいろいろな要求を言われているのですが、どのように対処していけばよいのでしょうか。



親は、子どものトラブルを解決してもらいたい、安心して学校生活を送らせたいと願っています。そのためには、まずは「話を聞いてくれ」「自分の存在を認めて欲しい」という要求を持っています。誠実に「話を聞く」態度で対応すると、どんな問題もトラブル化しない場合が多いですよ。



例えば、

私が気がつかなかったことを、教えていただきありがとうございました。  
明日からしっかり指導ができます。

教えていただいたおかげで、学級の子どもたちみんなが助かりました。  
ありがとうございます。子どもはいろんな場面で変わりますから、今の私にも見えていませんでした。さっそく、明日、事実をつかんで指導したい  
と思います。(そして、指導した結果の連絡を忘れないように)

このように、常に謙虚な姿勢で臨むことが大切です。

質問:家庭訪問をする際の心得には、どのようなものがあるのでしょうか。



おうちの方は、子どもの先生はどんな先生なのか？

子どもをどのように見ているのだろうか？

どんなことを尋ねられるだろう？と

不安と期待をもって、待っていらっしやいます。

そこで、あらかじめ、アンケートを取り、子どもの日常生活や生活習慣、保護者の教育観等を資料として持って訪問すると、時間も短縮でき、話も弾みます。

短期間に全ての子どもを知るのは難しいですが、「かわいいな。」「できて、えらい。」「がんばっているな。」等、一つでも観察して、保護者に告げるといいでしょう。

それと、おうちの方から、「子どもさんのよい点、素晴らしい点」等を、直接、おうちの方の言葉で聞くと信頼関係が築けると思います。

また、最低時間を守ることです。

そして、ご飯時には行かないようにしましょう。

## 第 章 生徒指導編

質問:保護者は自分なりの「子育て観」を持っています。

そこで、保護者とのよりよいコミュニケーションを図るために、忘れてならないこととして、どのようなことがあるのか教えてください。



(1)「自分がその子の保護者だったら？」そのことは常に考える必要があります。

どの子の保護者も自分の子どもを大切に思っています。

(自分が人の子の保護者として、授業参観や懇談会に参加した場面を想像してみましょう。もちろん、みなさんにはまだ遠い話かもしれませんが)このことが、わたしたち教師が保護者とコミュニケーションする場合の基本です。

(2) まず保護者の話を聴きましょう。

受容的立場に立って保護者の話を聴くことが大切です。

保護者の「子育て観」をまず聞いてから、自分の「子育て観」を寄り添って考えてみましょう。

保護者は「担任に話を聞いてほしい」と思っています。だから、自分の考えを保護者に述べる前に、まず聞くことが大切です。

しかし、ついつい教師は、自分の考えを先に述べてしまったり、話を聴き終わらぬうちに自分の考えで話を進めようとしてしまいがちです。すると保護者は、「担任に自分の話を聞いてもらえない」「担任は自分の考えに否定的だ」と判断してしまいます。

そして、保護者には欲求不満が残ります。

**(3) 保護者と共に子どもをよりよく育てていこう、と言う姿勢が大切です。**

子育てにおいては、その子に長く関わってきた保護者の意見や考えも尊重しつつ、担任が教育的立場から、その専門的意見や社会的意見などをアドバイスして、その子をよりよくしていくためにはどうしていったらいいのかを、保護者と共に考えていく姿勢が大切です。

保護者は、つい自分の子しか見ていないので、視野が狭くなってしまいがちです。ここで、担任が集団生活を送る子どもたちにとっての、広い視野にたったアドバイスを保護者に与えることができれば、保護者にとっても自分の子どもの新たな一面を発見することにもつながるだろうし、地域社会の中でよりよく育てていくことにつながっていくと考えます。

**(4) 保護者との雑談を大切にしよう。**

雑談の中で、その保護者の見えない一面が見えてくることは多いです。人間は、かしまった場の中ではなかなか見せないその姿を、こうした雑談の中でふと見せるものです。

こういう機会を捉えて、保護者理解に役立てるべきです。また、こういう時には、学校では見られない、聴こえてこない、子どもの情報が出てきたりします。それは、児童理解に役立つと共に、その子のまた違った一面を発見するきっかけにもなります。気がついたことは後で要点などをメモしておく、大変役に立ちます。

**(5) 教師は教育職として、その専門性を高め、保護者に求められた時に、必要に応じたアドバイスを与えられるように日々研修に励むことが必要です。**

教師に必要なものとして、数学者の秋山仁は次の五者を挙げています。

- |        |   |
|--------|---|
| 1 . 学者 | 専門性を高める。  |
| 2 . 芸者 | 子どもたちを惹きつけられるような特技を持つことは大切です。   |
| 3 . 役者 | その場その場の役になりきって、演技できる演技力が大切です。学級経営をしていく中で、学年経営をしていく中で、場面に応じた演技はその場を盛り上げたり、その場を引き締めたり、楽しい雰囲気にしたります。 |
| 4 . 易者 | 子どもたちの将来(未来)に対してアドバイスを与えることは大切です。   |

5. 医者 子どもたちの保健面，健康面に対してアドバイスできることは大切です。

質問：生徒指導で大切なことを教えてください。



生徒指導の「基礎・基本」は、ほう・れん・そうです。

1. ほう(報告)

児童生徒に対して指導した事柄は、必ず学年・生徒指導担当・管理職に報告することを忘れてはなりません。(事後に保護者から電話が入ることがあり、その時に「聞いてません」という対応はできないのですから。そのような対応になると、保護者が不信感を抱く原因となります。)



2. れん(連絡)

学校であったことは、保護者に必ず連絡することです。「これくらいのことで電話？」という人がいますが、他のことも話の話題にしながら電話をすれば、コミュニケーションがとれるものです。しかし、電話ですまさないで足を運ぶこと(家庭訪問)も連絡の大切な方法です。

3. そう(相談)

指導に関して、自分だけで考え判断できることが、力量のある教師と思われがちですが、そうではありません。一人の先生が指導する内容は、全ての先生に関係しているのです。直接の指導は、自分だが、バックには大勢の先生がついてくれていて、何でも聞ける。何でも一緒に考えてくれる指導体制が大切なんです。恥ずかしがらずにドンドン聞きましょう。

質問：複数で問題行動を起こした児童生徒への指導のあり方について教えてください。



個別に事実確認し、指導することです。

複数相手に指導すると、児童生徒の間に仲間意識と連帯感が生まれ、指導困難になる場合があるので気をつけましょう。

形だけの指導に終わらないことです。自分自身の信念を訴えましょう。

子どもは、自分の保身に走りがちですが、本当は善悪を知りたがっています。悪は許さない、という信念を植えつける努力をおこたらないことです。

けんかの仲裁でも、必ずかかわった人双方の話を聞くことです。後回しにせず、そのときに解決しましょう。

その日のうちに解決して終わることがポイントです。

質問:子どもにけがやトラブルなど重大なことがあった時、教師はもしなければいけませんか。



私が若い時に、校長先生に教えられました。

「子どもに重大なことがあった時（事故やけが、トラブルなど）は、必ずその日のうちに家庭訪問を下さい」と。重大なことだけでなく、電話を入れておくことが必要です。

教育とは、「今日行く」ことなのです。

質問:私のクラスに不登校児がいます。どのように対処すればいいのでしょうか。



自分だけでかかえこまず、校長先生、教頭先生をはじめ、学校全体で取り組んでもらいましょう。

長期にわたる場合もあるので、あせらず対応しましょう。

家庭訪問などして、こちらからも接する機会を持ちましょう。

クラスの子どもたちとのつながりが切れないよう、日常的に連絡を届けてもらいましょう。

保護者との連絡も、電話や連絡帳で日常的に行いましょう。

（なかなか好転しないのが現状ですが、とにかく関わることです。あきらめずに続けていきましょう。）

## 編集後記

初任者の皆様、この冊子には先輩たちの知恵がぎっしりとつまっています。一編一編をじっくりと読み込んでください。

人には、それぞれ顔が違うように、それぞれの先生方の方法もみんな違います。それぞれの先生のいいところは何か、とにかくいいところを見つけて、いろいろとやってみる事です。そして、「これだ」と思ったら、とことん継続してやっていくことです。

スポーツ選手が反復練習によって技術を身につけるように、教師という営みもまた、型として覚え、反復していきながら、身体に刻み込まれた技にまで高めてこそ、本当の力になっていきます。

そうやって、これから自分自身の力で『初任者ナビ』をつくりかえていってください。

さて、市立小中学校教職員の皆様方には、お忙しいなかにも関わりませず、初任者への貴重な財産を提供して下さり、誠にありがとうございます。

この冊子は、初任者のみならず教師を志すものにとって、改めて足元を見つめ直す絶好の機会になると確信しています。

今後も、皆様お一人お一人の持つ貴重な専門性、知恵を本市の共有財産として未来へ向けて発信していきたく存じますので、どんどん学校教育課までご連絡いただきますようお願い申し上げます。

平成16年5月10日

河内長野市教育委員会

